

- 1 主 題 「いただきます」～命を食べる～
- 2 本時の目標
食べ物には、様々な生き物が関わっていることに気づき、感謝の気持ちで「いただきます」と言える心情を育てる。
- 3 本時を指導するにあたって
本クラスは好き嫌いの多い児童が何人もいて給食では残滓が多い。身の回りには食べるものは豊富にあり、嫌いなものを無理に食べなくても身体は成長していくので特に問題に感じていない。しかし偏食は身体の成長に影響を与える。これまでに生活科で、夏野菜を育てたり、野菜の栄養について話を聞いたりして、野菜を育てる苦労や野菜を摂取することの大切さを学んできた。また、動物ふれあい教室では小動物の命を肌で感じ、命の尊さについても考えることができた。人間は動物や植物の命をいただいて生きている。私たちの食べ物になっている生き物の命について考えることで、好き嫌いを残さず食べることが、動植物の命を尊重することになり、自分の命も大切にすることだと気づき、食事の場に生かすきっかけとさせたい。
- 4 準備・資料
・教師：給食の写真、電子黒板、パソコン、給食の残滓の写真、ワークシート
絵本「いただきますーす！」〔二宮由紀子 文、荒井良二 絵、(株)解放出版社〕
- 5 指導計画

段階 時間	学習活動	・留意点〔支〕支援 〔人〕人権教育的配慮 評 価
つかむ 3分	1 食事の前にはいつも「いただきます」と言っていることを思い出す。 「いただきます」について考えよう。	・ 給食の写真を見せ、みんなで「いただきます」と唱えさせる。
考える 7分	2 食べ物と生き物の関わりについて知る。 	・ 絵本「いただきますーす！」から、ハンバーグが皿にのっている絵と牛が皿にのっている絵を提示し、両者を比べることで、食べ物と生き物のつながりを考えられるようにする。 ・ 食べ物はもともと生き物であることに気づかせる。
高め合う 30分	3 生き物の命を食べていることについて話し合う。 (1) 食べ物になった生き物は「かわいそう」か「かわいそうでない」かを考える。 (2) 発表して意見交換をする。 ・ かわいそうだと思う。 ・ 全部食べればかわいそうではない。 ・ やっぱかわいそう。だから残さず食べたい。 ・ 食べれば自分の命になってくれる気がする。 (3) 食べ物になった生き物の気持ちを考える。 4 食べ物に対する感謝の気持ちを書く。	・ 絵本「いただきますーす！」から食べ物になった生き物がかわいそうかどうか問いかけている場面を提示する。 〔支〕迷っている児童には「わからない」という選択でもよいことを伝える。 ・ どうしてそう思ったのか理由を聞いていく。 ・ 「かわいそう」の立場をとった児童の理由から聞いていく。 ・ 理由を聞きながら、そのポイントを黒板に整理していく。 〔人〕どの意見も認め、共感的に聞くようにさせる。 ・ 食べ物になった生き物の気持ちを吹き出しに書かせ、より生き物の命について考えを深められるようにする。 ・ 隣同士で発表した後、何人か指名して発表させる。 ・ 給食の残滓の写真を見せることで、生き物の命を無駄にしていることに気付かせる。 ・ 「いただきます」に続けて、心の中でどんなことを言いたいのかをワークシートに書かせる。
5分 まとめる	5 本時を振り返りをする。	・ 絵本「いただきますーす！」を読み聞かせる。 ・ 見やすいように電子黒板を使用する。

- 6 事後の指導 「きゅう食ありがとうカード」への記入を2週間実施し、感謝して残さず食べられたか自己チェックさせることで、食べ物に対する感謝の気持ちを継続させる。
- 7 反省
- 8 高評